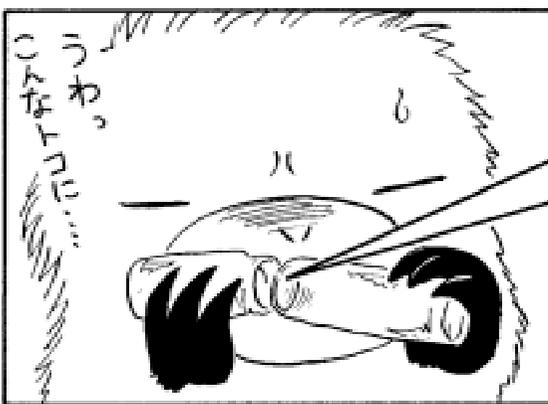


ムツゲ ～その3～ 日誌

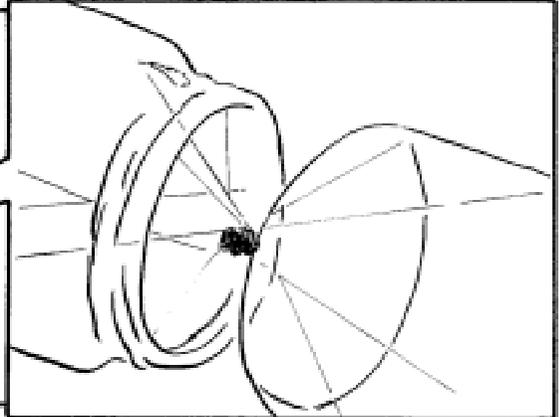
7月6日

ハリガエトモユキ

掃除と水かき
……



うわ
……

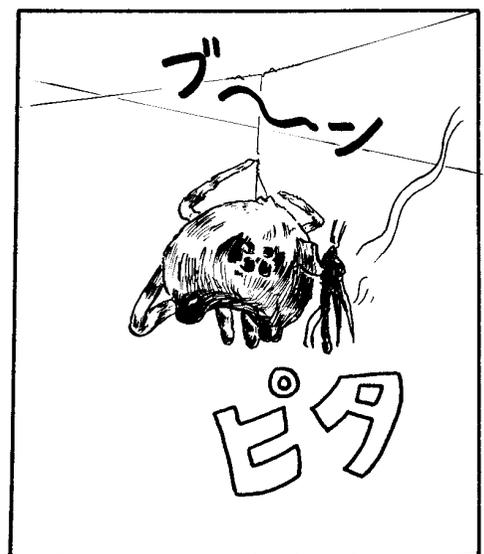
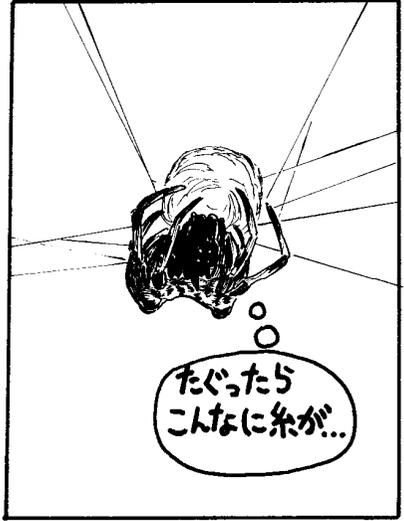


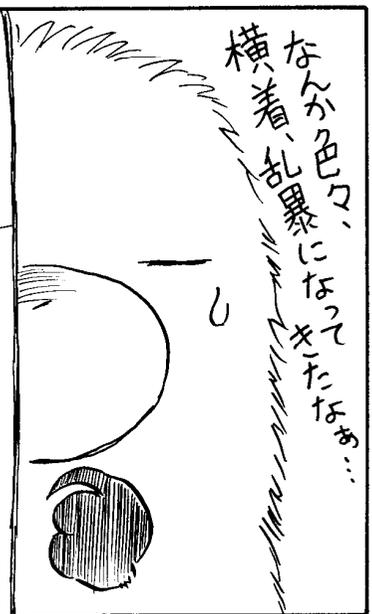
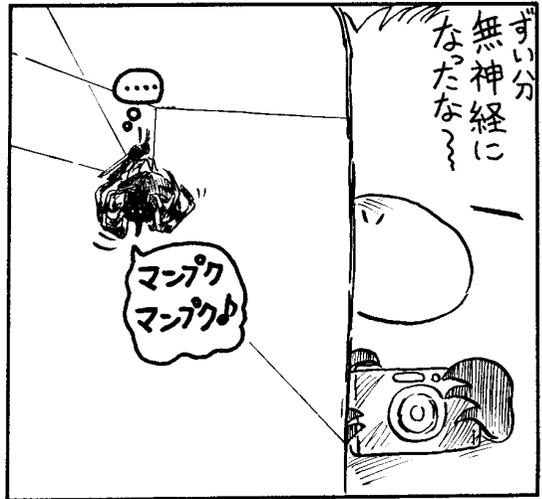
触らないで何とか
上の瓶に……

ムムム

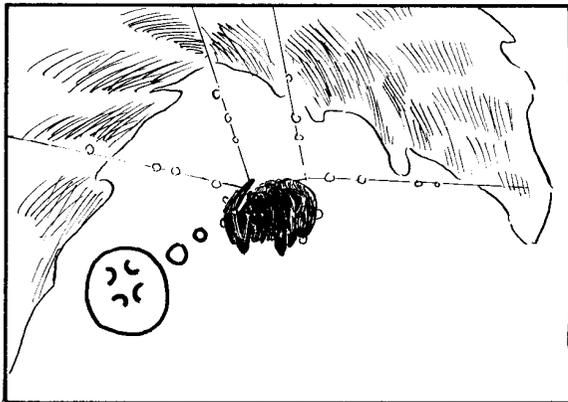
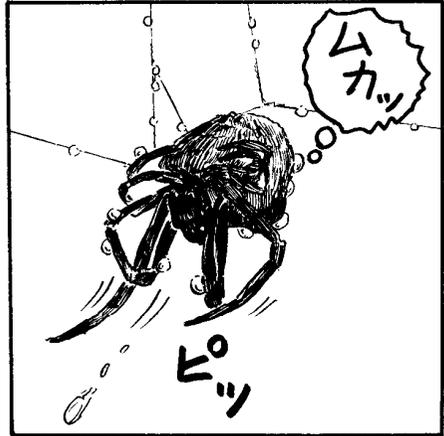
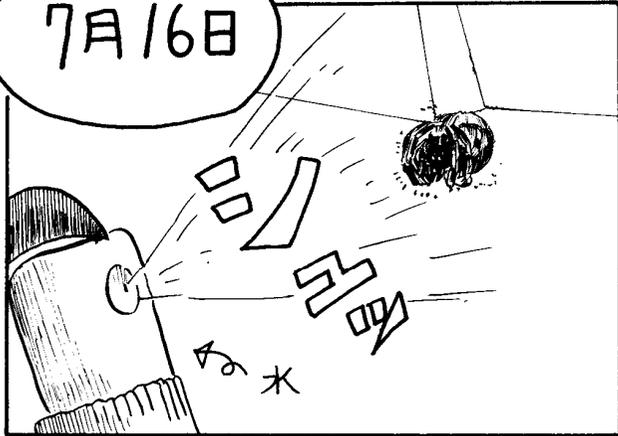
ムムム……

ととと





7月16日



同日、18:08



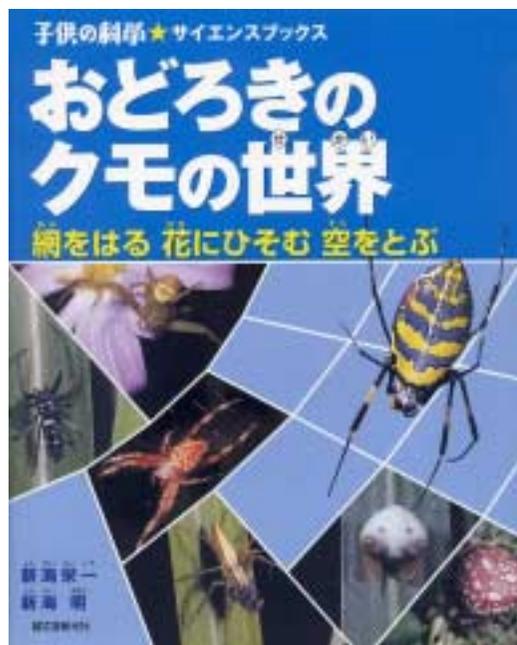
書評 おどろきのクモの世界

徳 本 洋

子供の科学サイエンスブック

おどろきのクモの世界 網をはる 花にひそむ 空をとぶ

新海栄一 新海 明 著 111 ページ 誠文堂新光社 東京



このほど新海栄一・新海明のご兄弟共著「おどろきのクモの世界」が出版された。一読、これはすばらしいクモ入門書、クモマニアへの誘いの書と思った。以下、その所感を述べさせていだきたい。

著者二人は本東京蜘蛛談話会会員の皆さんならば誰一人知らぬ方はいないであろう。共にわが国クモ研究の中心的大活動家であるし、栄一さんはその会の現会長でもある。また、この本は誠文堂新光社という明治時代から続いている老舗出版社の「子供の科学サイエンスブック」というシリーズの中の1冊であるが、このシリーズからはすでに天文、地学、動植物など20冊ほどの既刊があるらしい。このシリーズ名に使われている「子供の科学」という語は私のような高齢者にはと

ても懐かしい、なじみある言葉である。というのは、いまの時代と違って私の子供のころはこの雑誌はただ一つの子供向けの科学関連雑誌（大正14年創刊）であり、胸をときめかして読んだ思い出がまず頭に湧き出してきたからである。従ってこのクモに関する新刊書は子供を対象としたものであると私は判断して読みはじめた。

ところが目をとおすにつれて、これは子供だけを対象にするのではなく、クモについて関心をもち始めた大人に対する入門書として、あるいは既得の知識のレベルアップや整理をねらうクモ愛好家にも十分に役立つようにと著者らは意識して執筆しているのだと感じ出した。しかし出版社の狙いはあくまでも子供を基盤としており、また、そうでないと売り上げ冊数が伸びないであろう。専門書は売れないというのが相場と聞く。だから著者らが力んでつ走らないように編集局がかなりコントロールを効かせながら出来上がったのがこの本ではなかろうかと推測した。とにかく子供向けの良書という印象を持たせれば多くの一般の図書館が仕入れてくれるであろう。日本の図書館統計（2006）を調べたところ公共図書館が3,083、大学図書館（短大、高専を含む）が1,658とあった。計4,741

である。私は自宅の近くにある金沢市立図書館分館に行ってみた。大人向けの部屋の書棚にはクモの本はきわめて少ない。しかし児童向けの部屋にしてみるとクモを記した本は結構多くあることが判った。特にその中に昆虫全般を対象とした冊を含んでいるシリーズもののがかなりあるが、その冊の中には必ずといってよいほど、その他の動物というページがあって、昆虫でない虫を扱っており、その内容の大部分がクモである。

そのような図書の中でクモに割り当てられているページ数は4~6ほどと少ないが、30~50種ほどのクモを図鑑的に載せるだけではなく、この短いページ数の中に盛り込まれているクモ入門の内容をいかに充実させるかに、それぞれの著者の苦心がありありと見えて興味深い。特にこのページの執筆、監修にクモ研究の専門家がたずさわっている場合はそれぞれの時代のクモ情報レベルが反映しているからである。クモの体の構造、単眼の並び方、典型的円網の張り方の過程、網の型の種類は1970年代初期の出版物から後は必ずといってよいほど入るようになっていた。写真として取り上げられるクモの中にミズグモが加わり、セアカゴケグモが現れ、ナゲナワグモが紹介されたりするようになるのはそれぞれの日本国内での発見年代に沿っている。クモはなぜ自分の巣にくっつかないのか、クモはなぜおしりから糸を出すのか、クモの生育の仕方などの解説も加わり出す。網の種類についても日本のクモには見られない型の網やその使い方が説明される例も出てきた。その写真も著者や写真提供者が外国で直接撮影してきたものようだ。こうして子供向き図書であっても驚くほど幅広い分野から多くの内容が盛り込まれている。新海栄一さんはこういった出版にいくつも関わっておられる方の一人でもある。

クモに興味をもちはじめた人が最初に持とうとする本は図鑑であろう。さまざまのクモの名を知りたいというのが、クモ好きのスタートになる欲求だからである。図鑑にもその初めや終わりの部分に簡単なクモ入門的なページがあることが多いが、本の性格上、種の鑑別に必要な用語解説を目的とするとごく簡潔なものである。クモはそれぞれの種による網の形の違い、餌捕獲法の違いなど生態的なことが人の興味をひくことが多いが、そういったことは図鑑中のそれぞれの種の解説文中に短く記されていることが多い。しかし、子供たちや大人たちの関心がそこからさらに一歩進んで育ち方、棲んでいる環境、分布の仕方などより深まり、広がってゆくにつれて、それに応えるにはどんな本があるか、という問題が次に起こってくる。ところが大人のクモ好き向けに書かれた本はしばしば出現するが、子供向けにつくられたこの手の本はあまりない。大人向けの本は多量の小さな文字が連なり、その中に小さい図がときどき挟まっているというタイプのものが多いから、大人でも全ページを読むにはかなり努力を要する。だから大きく、美しい図や写真の間に、思わず読みたくなるように文が散らばっているという本に会うと大人でもほっとする。たとえば昨年、船曳和代さん作成のクモの網の芸術的標本にクモの網研究の大家である新海明さんが解説をつけて発行された「クモの網」(INAX出版)などはその典型であろう。これは子供でも読めるという文章ではないが、クモ好きの子供ならばなんとか消化するのではないかと思われる。この本は石川県内の公立図書館18館のうちの5館に蔵書となってい

る。

そこで本稿の主題である「おどろきのクモの世界」はどうか。青をバックとしたつややかな表紙のデザインがまず目を惹きつける。これは著者ではなくて編集局の力量であろうが、重要なことである。2.5センチメートル角の極太ゴシックの表題が5種のクモのクローズアップ写真のコンビと相俟ってしたたかな引力を発揮しているのだ。そして開いた内表紙全面に今にも振り回している投げ縄粘球がこちらに飛んできそうなムツトゲイセキグモの写真が躍り出し、これが次のページをまくる意欲を湧き出させる。万事この調子であつという間に最終ページにきてしまった。平均すればこの本ではページあたりの写真が占める面積は8割ほどであろうか。プロ写真家である栄一さんの作品をはじめとして多くの協力者が撮影したすばらしい写真映像が惜しげもなく面積を使って印刷されている。それがまず読者を惹きつけ、説明を読みたくなつた目を文字へ移させてしまう。活字はすべてゴシック体で、ポイントも大きくて見やすい。なお、各写真の説明文では用いられていないが、ページの本文ではすべての漢字にルビが打ってあるのがいい。私の子供のころは漢字のルビは一般向けの印刷物では普通であったから、大人の本や新聞でも子供はどんどん読めたし、このことが本好きな子供を育てたと思う。

この本はクモについての最新の情報をとりこんでいるし、なんといっても総ページ数がこれまでの子供向けクモの本の25倍ほども多いから情報量はぐんと多い。網の種類でもこれまで子供向けの本にはなかった溪流の水面に糸を接着させて網をつくるナルコグモのみごとな網写真が載っている。わが国のクモでは最も小さい(体長0.7mm)種であるユアギグモの写真を私はこの本で始めて見た。レッド種のこと、温暖化にともなう分布域変動のこと、採集法のこと、網標本作成法などもこれまで児童向けの本にない分野である。そしてどのページも見ごたえのある大きな写真が洗練されたレイアウトで配置されているので、目を楽しませてくれるのが嬉しく、心を休ませてくれる。とにかく年齢、予備知識のあるなしにかかわらず、自然を愛し、クモに少しでも関心をもった方に自信を持っておすすめできる本として皆様で気配りいただければと思う。またこれまでにわが国のクモ関係の出版になかつた新しい型を開いたものなので、今後の研究の進展に合わせて、ときどき新訂版が出せるようになってほしいと願っている。

通信原稿投稿先：谷川明男 247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷 1-4-2-1416

E-mail：dp7a-tnkw@j.asahi-net.or.jp

通信の原稿締め切りは、4月総会まで、8月末、12月末です。

KISHIDAIA 原稿投稿先：池田博明 258-0018 足柄上郡大井町金手 1099

E-mail：fwgd9084@mb.infoweb.ne.jp

キシダイアの原稿締め切りは、6月末日と12月末日です。

会員の皆さんからのご投稿をお待ちしております。

女神湖合宿紀行文

(2009年7月18日~20日)

中西 亜耶

1日目

談話会の合宿，今年の行き先は長野県立科町だ．私の移動手段は新宿10時発の高速バス．受付で筑波大の本多さんと合流し，バスに乗り込むと，貞元さんと浅間さんが最前列に並んで座っていた．席は指定なので仕方ないが，大柄なお二人が並んでいるのはどこか窮屈そうに見える．私は後方の席に本多さんと並んで座った．ほどなく発車したバスは都内を進み，車窓からは東京タワーや汐留，皇居のお堀などが見えた．呑気に東京観光していると，運転手さんから「もうお気付きの方もいらっしゃるかと思いますが・・・」とのアナウンス．間違えて首都高を一周してしまったらしい．私もかつて遠出の際，「首都高は複雑だ」と脅されたことがあるが，プロでも間違えることがあるものか．そんなこんなで予定より2時間ほど遅れての到着となった．

終点の蓼科牧場でバスを降りると，さすが高原，少し肌寒いくらいの気温だった．歩いて10分ほどの民宿すずらん荘に着くと．夕飯まで自由時間ということで，すでに電車や自家用車で到着している参加者の面々は思い思いの時間を過ごしているようだ．私も荷物を置いてうろつくことにした．まず宿にいる犬の親子と遊ぼうとしたが，リゾート地住まいの彼女らはさすが人馴れしており，愛想を振る気は全く無い様子．構ってもらえず少しがっかりして外へ出た．寒さに震えつつ周辺を見てまわり，安藤さんと本多さんに教わって，タカユヒメグモとその卵囊を観察した．しかし他のクモはほとんど見つからない．やはり寒いからよね，などと納得しながら一人歩いていると，貞元さんに遭遇した．採集ビンの中にはすでにかかなりの数のクモが入っている．・・・さすがである．

夕飯のメインは豚肉でんご盛りのしゃぶしゃぶだった．美味しい・・・と純粹に言っていられるのも実は束の間，贅沢な話だが，あまりの量に後半は必死の思いで食べた．私は貧乏性なもので，よほど口に合わないものでなければ，基本的に目の前の食べ物を残すことができない．超満腹の状態での観察会に臨むこととなった．

夜の観察会は宿から歩いて5分ほどの林道で行われた．めいめい緩やかに寄ったり離れたりしながら観察を楽しむ．私はクモの名前をほとんど知らないが，知らないなりに観察会の楽しみ方がわかってきた．当たり前のことだが，名前を知りたければ，わかる人に



初日の夜間観察

聞けばいいのだ。そういう同好会の観察会なのだから、名前のわかる人は何人もいるし、「これはちゃんと顕微鏡で見てもなきゃわからない」というのも含めて優しく教えてもらえる。また名前にこだわらなくても、自分なりの課題を見つけると楽しい。私は今回写真撮影を頑張ることに決めた。谷川さんによると、クモの網は夜の方が撮りやすいのだそうだ。カメラ語に疎いのでアバウトな言い回しになってしまうが、クモ本体は白飛びさせてしまう勢いで撮ると、網がくっきりと写るらしい。早速自前のコンパクトデジカメを使ってサラグモ類の網撮影にチャレンジ。だがすぐ後ろの枝まで白くはっきり写ってしまい、どうにもうまく撮れない。またまた谷川さん曰く「まあそれでうまく撮れたらこんなでかいカメラ買わないよ（ご自身の大きなフラッシュ付きのデジタル一眼レフを指し）」もともとである。この夜はツググモ、シロタマヒメグモ、アシナガサラグモなどが観察できた。その後はおいしいお酒を飲みながらのクモ合わせ。わいわいとした雰囲気、具体的に何がと聞かれても答えに困るが、とにかく楽しかった。0時半頃おひらきとなった。

2日目

初芝さんに「青い顔」といわれながらも起床後すぐに朝風呂に入り、朝食は7時半・9時出発で、「箕輪平」という全行程1時間ほどの自然散策路へ車で向かった。迷路のような木道が走る遊歩道から、御柱コースというコースを途中まで辿る。林内はしっとりと苔むしており、木道で滑らないように気をつけながら歩いた。木道以降は基本的にしゃがみ系女子だ。エゾアシナガモや卵嚢持ちのホラヒメグモの一種、それにオレンジ色の綺麗なヤスデ、傘が深く窪んだ不思議なきのこなどを観察した。

集合写真を撮り、一旦宿でトイレ休憩をとったら本日2箇所めのスポット「蟹窪」へ向け出発だ。車窓からは立派な杉の木やお寺が見え、目を楽しませてもらった。到着すると、山をだいぶ降りたため、幾分気温が高い。12時前の少し早いお昼をいただき、皆ちらほらと周辺に散っていった。この辺りは午前中とは違い、比較的乾燥した里山の様相だ。小



箕輪平の迷路のような木道

さな神社と公園があり、その裏手には林と、林に挟まれた水田がのびる。私は初芝さんにより「ここでキシノウエトタテグモな！」というノルマを課せられた（キシノウエトタテを扱っている学生なため）が、カネコトタテグモしか見つけれなかった。石段の隙間のわずかな地面に作られた、小さな彼女らの観音開きの扉はなんとも可愛らしい。裏の林では縦方向の直径が11.5mmの大きな巣も見つけた。すぐ傍には、クラッシュアーモンドをまぶしたチョコ菓子のようなメルヘンなキノコ（テング

タケの一種らしい)が生えていた。ふと顔をあげると・・・神社の建物の壁を、新井さんが器用にも田植長靴で上っている！面白くて何枚も写真を撮ってしまった。その後もロープを手繰って倉庫の屋根に上がるなど、つば付のキャップを後ろ前に被って縦横無尽に往来する姿は、まさにヤンチャと形容したくなるものだった(失礼?)。さて蟹窪は予定していた集合時間 15 時よりも少し早めに切り上げて、夢科牧場でソフトクリームをいただき、すぐ近くの史跡「鳴石」周辺を散策した。ここではタカネエビスグモや卵囊を守るマルコブオニグモ、物思いにふける馬などが観察できた。



神社の壁を・・・

前夜に引き続いての特盛肉のすき焼きでお腹を満たしたら、今日も夜間観察だ。午前中に行った「箕輪平」の散策路を、今度は逆側から歩く。少し入ると道の片側は崖になっており、下から沢の音が聞こえる。ライトのちらつきが見えるので、誰か下りて行っているらしい。今日は観察範囲が広く、参加者同士の間隔が広いため、懐中電灯を消すと周りほぼ真っ暗になる。前夜と違い空が晴れていて、木立の間からたくさんの星が見えた。私は時折ライトを消して星を見ながら、道端にしゃがみこんで落ち葉をめぐったり写真を撮ったり、のんびりと楽しんだ。卵囊を持ったナンブコツブグモ(初芝さん曰くナンコツ、と略すらしい)がたくさん見られた。クモも卵囊もとても小さくて可愛らしい。集合後は皆で少し星を見て、宿に帰って飲み物をいただきながらのクモ合わせ。八幡さん採集の、脚に細く白い筋の入った“筋金入り”イオウイロハシリグモがかっこよかった！この日も0時半頃にお開きするまで、楽しく飲ませていただいた。

3日目

最終日は、宿から車で10分くらいだろうか、少し山を登った「夢の平」という地点で観察を行った。明るい林内に砂利道が通っており、カッコウとウグイスが鳴いているのどかだ。空気もひんやりして清々しい。チョウがたくさんいるが、そのうちの一只(クロヒカゲというらしい)が私に止まり、汗を吸い始めて離れなくなった。可愛い・・・うーん夢の平(?)。ここではヤリグモとその作りたての卵囊、何かナミハグモ(持ち帰ったが、成体まで育てられなかった)、乗馬クラブの隊列などを観察した。・・・白状すると、チョウや植物に夢中になって、私はあまりクモの観察はしなかった(ごめんなさい)。

その後は宿で昼食をとり、解散となった。あとは三々五々、採集に行ったり、帰路につ

いたりしたようだ。私は高速バスの時間まで本多さんと蓼科牧場へ行き、牛や羊を見たりソフトクリームを食べて過ごした。余談だが、バスは行きと同じ運転手さんで、「今度は首都高一周しませんから」と約束してくれたものの、道路の大渋滞で結局予定より2時間遅れての新宿到着となったのだった。

さて、最後になったが、涼しい中で楽しいひと時を過ごせたのも、世話人の初芝さん、甲野さんのおかげである。また他の参加者の皆さんにも、色々と教えていただいたり、お世話になった。宿のすずらん荘も過ごしやすかった。この場を借りて、皆さんにお礼申し上げます。

・・・私は来年から学生でなくなるが、また参加できるといいなあ。

東京蜘蛛談話会 2009 度採集観察会

1. 期 日： 第3回 10月11日(日) 第4回 2月14日(日)
2. 場 所： 横沢入里山保全地域
参考 (<http://www.ab.auone-net.jp/~yokosawa/>)
3. 集 合： JR 五日市線武蔵増戸駅改札前 午前 10:00
4. 世話人： 新井浩司

現地及び武蔵増戸駅周辺にはコンビニ、売店等はありませんので、昼食等は事前にご用意下さい。車で来られるかたは、駐車スペースの問題も有りますので、事前に新井(090-9233-8713)まで御連絡下さい。



画：初芝秋沙ちゃん

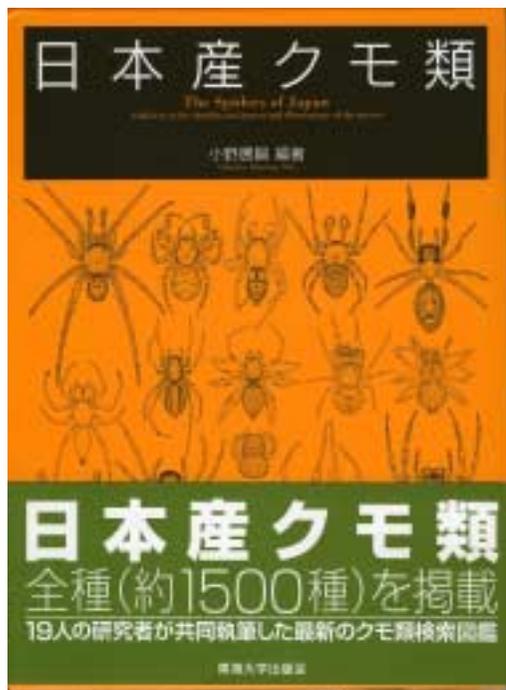
新しいクモ図鑑が出版されました

小野展嗣編著 日本産クモ類 東海大学出版会

ISBN978-4-486-01791-2 C3645 764頁 B5判

定価 33600 円 (税込)

内容 (「BOOK」データベースより)



現在までに日本から記録されているクモ類 (Araneae) の全種 (64 科約 1500 種) を網羅し (新種記載を含む) , 科および属の検索表を掲げた . サラゲモ科の全種 (110 属約 280 種) を日本で初めて図示した . クモを総合的に理解できるように , 節足動物 , 鋏角類の進化から解きほぐし , 形態 , 分類 , 系統などについて概説 , サソリやダニなど近縁の各群にも言及した . 独自の視点で世界のクモ 115 科の分類表を掲載 . 種の項では , 一般的な特徴の他 , 分布や生態学的事柄について付記し , 主な種については , 口絵のカラー生態写真を充実 . 研究法 , 標本の作り方 , 生態写真の撮影法にも触れる .

すでにほとんどの会員の方がご存知のこととは思いますが , かねてより出版の準備が進められていたクモ図鑑がついに完成しました . 日本産のクモが全て収録されています . これまでは , 採集してきたクモの標本同定をしようとすると , 自分で記載論文の切り貼りをして作った資料を使わなくてはなりません . 自作の同定用資料は , なかなかコンパクトにまとめることができず , 何冊ものファイルに分かれていて使い勝手の悪いものでした . それがこの図鑑 1 冊にまとまったのです . 文字通り座右の 1 冊で , いまのところは顕微鏡の横にこれ 1 冊を置いておけば , ほぼ全ての標本を同定することができます . 同定資料のために必要なスペースは十分のくらいになりました . おかげでいままでも場所がなくて研究室には置いておけなかった外国の図鑑類も置くことができるようになりました .

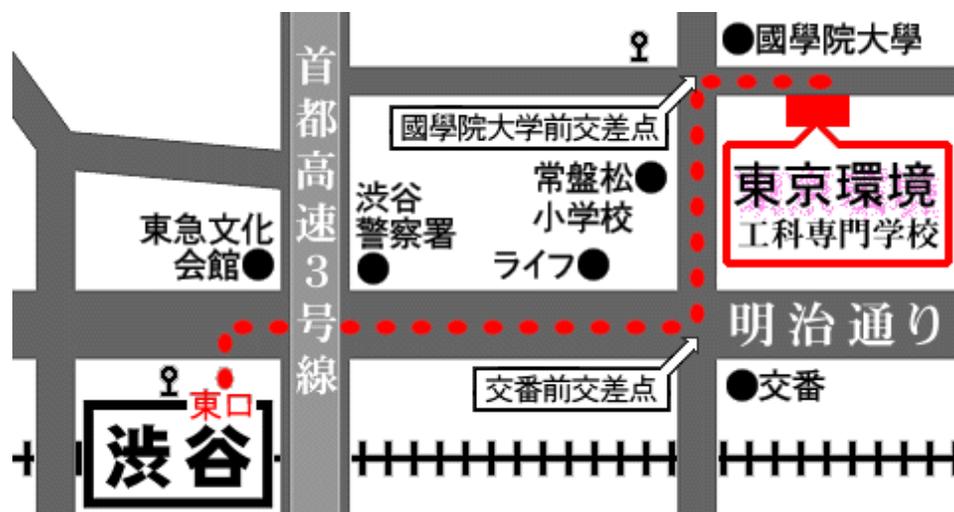
フィールドでのスパイダーウォッチングには文一総合出版の「日本のクモ」, 採集調査での標本同定には東海大学出版会の「日本産クモ類」で , 当分の間は十分ではないでしょうか . もちろん分類学的新知見はいまだに続々と発表され続けていますから , これで日本のクモ類の分類が完成したわけではありません . (谷川明男)

2009 年度 東京蜘蛛談話会 11 月例会

1. 日時 2009 年 11 月 29 日(日) 10 時より(開場 9 時 30 分)
2. 場所 東京環境工科専門学校 〒150-0011 東京都渋谷区東 2-5-3
「JR 渋谷駅」東口(東急文化会館側)より、「学 03 日赤医療センター行」バスにて約 5 分、「國學院大學前」下車，徒歩 1 分，170 円
3. 連絡 当日は，東京環境工科専門学校の電話が使用できないので，緊急時には以下に連絡ください．加藤輝代子 090-7012-6458 初芝伸吾 090-6156-8378
4. その他 プロジェクター，OHP 等用意いたします．
5. 講演をご希望の方は，演題と使用希望機材
(スライド，OHP，コンピュータ)
を事務局初芝までお知らせください．
〒186-0002 東京都国立市東 3-11-18-203 有限会社エコシス 初芝伸吾
mail : hatsushiba-ecosys@h8.dion.jp
Tel : 042-501-2651 Fax:042-501-2652

渋谷駅東口から徒歩 15 分です．坂道がありますので，バスを利用した方がよろしいか
と思います．

東京環境工科専門学校及びその周辺には駐車場ありません



東京蜘蛛談話会の会費は，一般 3800 円，学生 2000 円です．

郵便振替口座 00170-8-74885 東京蜘蛛談話会へお願いします．

会費のことは：会計担当 安田明雄 〒231-0861 横浜市中区元町 5-219

TEL : 045-641-0763 E-mail : kobato@gol.com